

生いのちふたたび

浅見洋子

働かない海が ある
働けない海が 拡がる
沈黙の海 不知火の海

薄雲から ぬけ落ちた
いくすじもの 陽の糸が
十一月の 不知火の海を おおった
灰色の世界に 網囲いされた 海

人間社会の 業を のみ込んだまま
孤独に 閉ざされた 海が
半世紀の 時を きざんでいた

働かない海が ある
働けない海が ある
不知火の海が 拡がる

利益社会の 業により
海いのちの生をうばわれた
不知火の海 沈黙の海

だが 感じる
海いのちのふところ 深く
生命いのち 育む いとなみを

祈りは ひとつ
自然よ ふたたび
生命いのちよ ふたたび
不知火の海よ ふたたび と

合 掌

